

# 映画「鹿の国」が完成



諏訪信仰をテーマにした映画「鹿の国」が完成し、年明けから県内外の映画館で順次公開される。農耕と狩猟が密接に関わる諏訪大社の四季の祭礼、神事を追ったドキュメンタリー作品。厳冬期に行われた中世までの「御室神事」を視覚的に再現し、信仰の根幹やいまも生きる祈りの姿に迫った。作品は諏訪地方観光連盟の「諏訪シネマズ」に認定。6日、認定式に出席した監督の弘理子さんは「諏訪の風土の力で映画ができた。他にはない諏訪の地の魅力が広がってほしい」と期待した。  
(鮎沢健吾)

## 研究者らの協力で「御室神事」を再現



諏訪大社が全面協力し、諏訪さん（伊那市出身）が代表、諏訪信仰を研究する北村皆雄を務める映像制作会社ツイシユアルフォークロア（東京）が制作。スワンミズムや大昔調査会などの応援を得て、2022年から24年春にかけて全編を県内で撮影した。

茅野市泉野の「穴倉」で行われた御室神事の撮影＝2023年11月4日

元巨の蛙狩神事や、鹿の頭の剥製をさ

風景や人の暮らしを交えながら諏訪信仰が根付く様子を伝える。「諏訪では鹿、贅、狩猟と農耕の神事が密接に関わり四季を通して重なっている」と弘さん。「大社が持つ四季の神事が、この土地の人々の心の核にあると強く感じた」と話す。

中世上社の最重要神事とされた「御室神事」は、わずかに残っている儀式の記録から再現に挑んだ。茅野市泉野の農閑期の作業小屋「穴倉」を竪穴の「御室」に見立て、精霊ミシヤグシを内部に降ろして豊作や豊穣を祈る芸能の場面を収録。県内の小

諏訪シネマズの認定は目となる。諏訪市役所で催された式には弘さん、北村らが出席。同連盟の金子正一会長（諏訪市長）は「御室の神事を映像にしたのは初めてのこと。諏訪地域にとって特別で大事な映画」として定証を贈った。

岡谷スカラ座では来年13日から公開される。5日には同館で試写会があり、ロケニューサーを務めた北村さんは「研究ができていなかったことを映画にした。諏訪皆さんに作っていただいた言っても過言ではない」と謝っていた。